

令和8年度  
水産大学校水産学研究科学生募集要項  
(第2次)

令和8年4月入学

水産大学校  
National Fisheries University

## 目 次

○ 入学者の受入方針, 教育方針, 概要	1
○ 募集要項	2
募集人員	2
出願資格	2
出願手続	2
事前相談	3
選抜方法	4
合格者発表	5
入学手続	5
注意事項	5
出願先及び照会先	5
受験生の個人情報の取り扱いについて	5
○ 参考	6
研究指導分野の概要	6
授業科目及び単位数	8
その他	9
○ 出願書類	
○ 試験場案内図	

## 入学者の受入方針

水産大学校は、水産に関する学理及び技術の教授及び研究を行うことにより、水産業を担う人材の育成を図ることを目的とし、次のような学生を求めています。

- 水産業及びその関連分野に关心を持ち、自ら学ぼうとする意欲が旺盛で、世界での活躍を目指す学生
- 自然と人類の共生を真剣に考え、未知の分野の探求に情熱を持って取り組もうとする学生

## 教育課程の教育方針

水産学研究科では、本科又は大学で身に付けた水産に関する専門知識と技術を基盤に、水産業及び水産政策の重要課題解決に向け、更に専門性の高い知識と研究手法に関する教育・研究を行い、高度な技術指導や企画・開発業務で活躍できる人材を育成します。

特に、水産業・水産行政・調査研究等で求められる現場での問題解決、水産施策、研究等の企画、遂行、取りまとめ等に係る高度な能力と組織における指導者としての行動のあり方を修得させるほか、専門分野外も含めた水産の総合力を養い、広い視野を持たせます。

## 水産学研究科の概要

水産学研究科には、水産技術管理学専攻と水産資源管理利用学専攻の2専攻があり、それぞれの専攻には、さらに2つの専攻分野があります。

- 水産技術管理学専攻（漁業技術管理学専攻分野、機関工学専攻分野）  
海洋の漁場環境、海洋生物資源量の適正評価、漁船・漁具・漁法などと水産機械の合理化、高性能化、安全化を図ることを目的として、漁業並びに水産に関連する機械、機器の開発に必要な基礎学理と応用技術、漁船運航の効率化を漁業生産システムと連動させた分野を攻究・修得させる。合せて、漁業経営・経済の分野から、水産管理について攻究・修得させる。
- 水産資源管理利用学専攻（水産資源利用学専攻分野、水産資源管理学専攻分野）  
水界における生物生産に関する基礎的学理を基盤として、魚介類資源の動態解析、有用魚介類の増養殖に係わる学理とその応用技術を攻究・修得させると共に、水産物の加工と保藏に関して化学的、微生物学的及び工学的な学理と応用技術を攻究・修得させる。

# 水産大学校水産学研究科学生募集要項(第2次)

## 1. 募集人員

専攻	専攻分野	研究指導分野	募集人員
水産技術管理学	漁業技術管理学	漁具・資源計測学, 水産海洋環境学, 航海・運用学, 水産管理学	若干名
	機関工学	計測・制御工学, 内燃・環境工学, 伝熱・機械工学	
水産資源管理利用学	水産資源利用学	水産食品安全学, 水産加工利用学, 水産食品機能学	若干名
	水産資源管理学	資源生物学, 資源環境学, 資源増殖学	

注) 研究指導分野の志望については、同一専攻分野に限り第2志望まで認める。

## 2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 本校を卒業した者又は令和8年3月末日までに卒業見込みの者
- (2) 大学を卒業した者又は令和8年3月末日までに卒業見込みの者
- (3) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は令和8年3月末日までに授与される見込みの者
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は令和8年3月末日までに修了見込みの者
- (5) 昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣の指定した者
- (6) 校長が、本校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

## 3. 出願手続

**出願期間** 令和8年1月9日(金)～令和8年1月16日(金)まで(必着)

志願者は次の書類等を一括し、本校所定の封筒を用い、特定記録・速達で水産大学校教務課に郵送又は持参すること。

(持参の場合は、令和8年1月16日(金)17時15分まで)

①	入学願書、受験票、写真票及び履歴書	本校所定の用紙を用い、必要事項を記入すること。
②	入学検定料	30,000円 〔銀行領収印を入学願書の相当欄に押印してもらうこと。〕
③	卒業証明書又は卒業見込証明書	出身大学等の長又は学部長が発行したもの。(本校卒業者及び在学者は不要)

④	専攻科修了証明書又は専攻科修了見込証明書	出願資格（3）により出願する者が提出するもので、在籍する短期大学長、高等専門学校長、教育施設の長が発行したもの。
⑤	学士の学位授与証明書又は学士の学位授与申請（予定）証明書	出願資格（3）により出願する者が提出するもので、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構又は在籍する短期大学長、高等専門学校長、教育施設の長が発行したもの。
⑥	成績証明書	出身大学等の長又は学部長が作成し、厳封したもの。
⑦	志望理由書	本校所定の用紙を用い、記入すること。
⑧	受験許可書	大学院に在学中の者及び官公庁・会社等に在職中の者は、その長が発行したもの。
⑨	住民票の写し（外国人住民のみ）	外国人住民は、国籍、在留資格、在留期間、在留カードの番号を記載した住民票の写し（提出書類には、これに記載された氏名を必ず用いること。）を必ず添付すること。
⑩	受験票等返信用封筒	本校所定の封筒に郵便番号・あて先を明記し、速達料金分（410円）の郵便切手を貼ったもの。
⑪	合格通知書送付用封筒	本校所定の封筒に合格通知書が確実に受信できる郵便番号・宛先を記入すること。

#### 4. 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

（1）水産学研究科に入学を希望する者で、身体等に障害があり、入学試験時に特別な配慮を希望する場合は、別途、出願期間開始日までに本校所定の様式による「申請書」を提出していただく必要があります。補聴器やイヤーマフ等を使用しての受験を希望する場合も必ず申請して下さい。申請に際して、障害者手帳又は医師の診断書の写し等の書類のほか、面談や追加の書類をお願いするなど時間を要することもありますので、できるだけ早く修学支援室に相談をお願いします。なお、入学試験時における配慮については、希望される内容に対応できない場合もありますので、ご了承下さい。

また、申請期限後に配慮を必要とすることとなった場合には、速やかに相談をお願いします。

（2）連絡先 水産大学校 学生部 学生課 修学支援室

☎ (083)227-3848 (直通)

## 5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力（筆記）試験及び口述（面接）試験の成績並びに成績証明書及び志望理由書の審査の結果を総合して行う。

### 学力試験

#### ○ 試験区分・日時・場所

試験区分	月日	時間	場所
専門試験科目	令和8年3月9日(月)	9:30~11:30	水産大学校
外 国 語		13:00~14:30	
口述（面接）		15:00~	

#### ○ 筆記試験科目

専攻	専攻分野	研究指導分野	専門試験科目	外国語
水産技術管理専攻	漁業技術管理学	漁具・資源計測学	漁具学, 漁業情報学, 漁業機器学	英語
		水産海洋環境学	資源解析学, 資源生態学, 水産海洋学	
		航海・運用学	漁船運航管理学, 海上人間工学, 漁船航行情報学	
		水産管理学	水産経済学, 養殖システム学	
	機関工学	計測・制御工学	流体力学, 制御工学, 工業力学	
		内燃・環境工学	熱力学, 物理学	
		伝熱・機械工学	伝熱工学, 機械力学, 材料力学	
水産資源管理利用学専攻	水産資源利用学	水産食品安全学	分析化学, 食品衛生学, 微生物学	
		水産加工利用学	食品保藏学, 食品加工学, 生物有機化学	
		水産食品機能学	水産化学, 生物化学, 食品分析	
	水産資源管理学	資源生物学	水族生理学, 魚類生態学, 水産動物学	
		資源環境学	浮遊生物学, 増殖生態学, 水産植物生態学, 水産植物学, 沿岸環境生物学	
		資源増殖学	水産増殖学, 水産動物組織学, 水族遺伝学, 水族防疫学, 水族栄養学	

- (1) 専門試験科目は2科目とし、志望する研究指導教員が指定する専門試験科目を1科目及び同一専攻分野の専門試験科目から1科目を受験すること。
- (2) 第2志望がある場合は、第1志望及び第2志望の研究指導教員が指定する専門試験科目（前記（1）の受験方法に準ずる。）をそれぞれ1科目を受験すること。

## 6. 合格者発表

令和8年3月17日（火） 正午

本校構内の掲示板及びホームページに掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付する。なお、電話等による照会には応じない。

## 7. 入学手続

入学手続については、合格発表時に詳細を連絡する。

## 8. 注意事項

- (1) 出願にあたっては、事前に希望する研究指導教員に連絡してから出願すること。
- (2) 出願後は、志望研究指導分野及び試験科目の変更は認めない。
- (3) 出願書類等の不備なものは、受理しない。
- (4) 出願書類等が受理された者に対しては「受験票」を送付する。なお、受理された後は、入学検定料及び出願書類は返還しない。
- (5) 住所変更等願書記載事項に変更が生じた場合は、ただちに書面で教務課に届け出ること。

## 9. 出願先及び照会先

〒759-6595 山口県下関市永田本町二丁目7番1号

水産大学校教務課 ☎ (083) 227-3842

募集要項・入学願書を必要とする者は、郵便番号・あて先を明記し、270円切手を貼った返信用封筒(角型2号)を同封し、「水産学研究科願書請求」と朱書きして、上記あてに請求すること。

## 10. 受験生の個人情報の取り扱いについて

出願の際に提出いただいた個人情報は、次のとおりに取扱います。

なお、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律第27条第1項に規定されている場合を除き、受験生本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

### 利用目的

- ①入学試験の実施及び選考
- ②合否の通知、発表
- ③合格者への入学手続の案内
- ④入学後に本校が使用する学生個人情報への移行

### 個人情報の管理

本校は、個人情報を不正に利用されたり、漏洩・紛失・滅失・改ざん等がないよう厳重に管理します。

(参考)

1. 研究指導分野の概要

(令和8年度予定)

水産技術管理学専攻分野	研究指導分野	研究指導教員	教育・研究指導の概要
	漁具・資源計測学	教授 梶川 和武	水産物の安定供給を確保する観点から、環境保全、水産資源の保護に資する漁業生産システムの構築について教育・研究する。
	水産海洋環境学	教授 柏野 祐二	水産資源の変動につながる温度や海流などの海洋環境の変動を、海洋物理学や気象学・気候学の観点から教育・研究する。
		教授 若林 敏江	水産資源の変動解明、資源管理の観点から、無脊椎動物を中心とした生物特性、資源構造について教育・研究する。
	航海・運用学	教授 川崎 潤二	漁船の運航と海上労働の安全性・効率性に関する、漁船の船体性能の評価、海上交通の解析、労働環境及び作業改善について教育・研究する。
		教授 酒出 昌寿	海上交通が輻輳する沿岸海域での漁船の安全航行、安全操業に向け、一般航行船舶との競合緩和、海上交通安全について教育・研究する。
	水産管理学	教授 甫喜本 憲	地域漁業を維持、発展させる観点から、漁業者、漁協、関連産業間の取組のあり方、および行政の支援方法について教育・研究する。
		教授 橋本 博	養殖の生産、加工および流通の全工程を養殖システムと捉え、特に海面養殖魚類における生産と販売戦略について教育・研究をする。
	機関工学専攻分野	教授 渡邊 敏晃	極限環境流体の性質や発生方法、関連する機械技術に加え、造船技術、水産物加工技術への応用について教育・研究する。
		准教授 徳永 憲洋	スマート水産業を支えるデータ解析方法、知的情報処理、知的計測・制御方法に関する新技術の開発について教育・研究する。
	内燃・環境工学	教授 石田 武志	水産業の課題（資源・エネルギー、生態系、環境汚染など）の解決方策を見出すための様々なシミュレーション手法について教育・研究する。
	伝熱・機械工学	教授 太田 博光	水産に関わる回転機械、内燃機関などの状態監視・診断新技術の開発および水産物の品質評価に関する新技術について教育・研究する。
		准教授 田村 賢	水産機器や海洋構造物の高耐久化・高性能化に資する新材料の開発と水産廃棄物を活用した機能材料の創成について教育・研究する。

水産資源管理利用学専攻	水産資源利用学専攻分野	研究指導分野	研究指導教員	教育・研究指導の概要
		水産食品安全学	教授 池原 強	水産食品の安全性の観点から、水産食品に含まれる毒性物質や機能性物質について、その構造と機能及び分析方法について教育・研究する。
			教授 古下 学	水産食品の安全性の観点から、水産食品の危害となる微生物や食品の保存について教育・研究する。
			准教授 福田 翼	水産食品の安全性や保存性の観点から、水産食品の微生物制御法や製造法について教育・研究する。
		水産加工利用学	教授 前田 俊道	水産食品の加工・利用・保藏の観点から、水産物の冷蔵凍結技術や鮮度保持技術について教育・研究する。
			教授 和田 律子	水産物の加熱やpH変化などの加工条件と加工品との関係について教育・研究する。
		水産食品機能学	教授 宮崎 泰幸	水産物利用の観点から、水産物の栄養成分・味やにおいなどの嗜好に関する成分・健康機能成分などについて教育・研究する。
			教授 杉浦 義正	食用海藻に含まれる機能性成分の探索と有効性評価、ならびに加工法や残存活性の評価など応用研究を通じて教育・研究する。
			准教授 真井 将勝	水産物に含まれるタンパク質やアミノ酸及びその関連物質が有する正または負の機能の利用や対策について教育・研究する。
			准教授 河邊 真也	水産物の高付加価値化に向けた機能性成分及びその生合成機序に関する基礎と応用について教育・研究する。
		資源生物学	教授 竹下 直彦	水産資源の増養殖と保全に資することを目的として、魚類の生態について教育・研究する。
			教授 半田 岳志	水産動物の呼吸機序、特に魚介類の呼吸循環器官や捕食器官の形態と生理機能について教育・研究する。
			教授 荒木 晶	水産資源の保全や持続的利用のため、水産動物の分類・生態学的特性や生息環境について教育・研究する。
		資源環境学	教授 村瀬 昇	水産植物の生理・生態学的特性及び藻場生態系保全に関わる群落構造や機能について教育・研究する。
			准教授 阿部真比古	水産植物の生育特性の把握と保全や利活用を目的として、生理・生態学及び育種学に関する基礎と応用について教育・研究する。
			准教授 山崎 康裕	水産資源の持続的利用の観点から、微細藻類の生理生態、有用性や有害性について教育・研究する。
		資源増殖学	教授 近藤 昌和	魚介類の各種疾病に対する防疫対策ならびに魚介類の生体防御機構について教育・研究する。
			教授 高橋 洋	水産遺伝資源の適正な保全・管理・利活用に向けた遺伝解析手法の基礎と応用について教育・研究する。
			准教授 安本 信哉	水産養殖魚介類の防疫対策の確立を目的として、病理学および免疫学的な特徴について教育・研究する。

## 2. 授業科目及び単位数

### 共通教育科目

授業科目	担当教員	単位数
科学者倫理	教授 石田 武志	1
実践科学技術英語	准教授 臺丸 谷美幸 教授 梶川 和武 教授 渡邊 敏晃 教授 山下 倫明 教授 竹下 直彦	1

## 専門教育科目

## 水産技術管理学専攻

### (漁業技術管理学専攻分野)

授業科目	担当教員	単位数
漁業計測学特論	(欠)	2
漁業情報学特論	教授 毛利 雅彦	4
漁具学特論	教授 梶川 和武	4
漁業機器学特論	教授 松本 浩文	2
資源解析学特論	教授 若林 敏江	2
水産海洋学特論	教授 柏野 祐二	4
資源生態学特論	教授 若林 敏江	2
海上人間工学特論	教授 川崎 潤二	4
漁船運航管理学特論	教授 下川 伸也 准教授 酒井 健一	4
漁船航行情報学特論	教授 酒出 昌寿	4
漁船航路選定学特論	助教 嶋田 陽一	2
漁業構造学特論	(欠)	2
養殖システム学特論	教授 橋本 博	4
水産経済学特論	教授 甫喜本 憲	4
水産物流通特論	(欠)	2
数理科学特論	(欠)	2
乗船漁業技術管理学特別実習	教授 梶川 和武	1
漁業技術管理学特別実験	各研究指導教員	10

### (機関工学専攻分野)

授業科目	担当教員	単位数
電子システム工学特論	准教授 徳永 憲洋	2
	講師 植木 友朗	
知能情報システム工学特論	准教授 徳永 憲洋	4
流体工学特論	教授 渡邊 敏晃	4
環境システム工学特論	教授 石田 武志	4
伝熱工学特論	教授 大原 順一	2
機械診断工学特論	教授 太田 博光	4
エネルギー変換工学特論	教授 渡邊 敏晃	2
材料工学特論	准教授 田村 賢	4
生産システム工学特論	講師 植木 友朗	2
水産数理物理モデル特論	講師 新居 慶太	2
機関工学特別実験	各研究指導教員	10

**水産資源管理利用学専攻**  
(水産資源利用学専攻分野)

授業科目	担当教員	単位数
水産微生物学特論	教授 古下 学	4
水産食品生命科学特論	准教授 河邊 真也	2
食品分析化学特論	教授 池原 強	4
食品微生物学特論	准教授 福田 翼	4
食品安全学特論	准教授 辰野 竜平	2
食品品質学特論	教授 前田 俊道	4
	講師 大久保 誠	
食品生化学特論	教授 山下 倫明	4
水産食品科学特論	教授 和田 律子	4
食品製造学特論	助教 谷口 成紀	2
食品栄養学特論	(欠)	2
水産物利用学特論	教授 宮崎 泰幸	4
タンパク質科学特論	准教授 白井 将勝	4
食品機能学特論	教授 杉浦 義正	4
水産資源利用学特別実験	各研究指導教員	10

(水産資源管理学専攻分野)

授業科目	担当教員	単位数
水族生理学特論	教授 半田 岳志	4
水産動物学特論	教授 荒木 晶	4
魚類生態学特論	教授 竹下 直彦	4
浮遊生物学特論	准教授 山崎 康裕	2
増殖生態学特論	(欠)	2
水産植物生態学特論	教授 村瀬 昇	4
沿岸環境生物学特論	准教授 南條 楠土	2
水産植物学特論	准教授 阿部 真比古	4
水族栄養学特論	助教 松井 英明	2
水産増殖学特論	(欠)	2
水産動物組織学特論	教授 近藤 昌和	4
水族防疫学特論	准教授 安本 信哉	4
水族遺伝学特論	教授 高橋 洋	4
実験実習場水産資源管理学特別実習	教授 高橋 洋	1
水産資源管理学特別実験	各研究指導教員	10

- 注) 1. 授業科目等は、令和7年度のものであり、変更されることがある。  
2. 授業科目の開講年次は、共通教育科目及び専門教育科目にあっては1年次、ただし特別実験にあっては1・2年次を標準とする。

### 3. その他

#### (1) 入学料及び授業料

入学料：282,000円（予定） 授業料（年額）：535,800円（予定）

ただし、本校を卒業し、引き続き水産学研究科に入学する者については、別に定める額とする。

なお、入学料、授業料は予定額であり、金額が改定された場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

#### (2) 学位の授与

水産学研究科に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、研究論文の審査に合格して課程を修了後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の論文審査及び試験に合格した者は、修士（水産学）の学位を取得することができます。

志望専攻	受験番号		
専攻	※		
令和 年 月 日			
<b>令和8年度入学願書</b>			
水産大学校校長殿			
氏名 _____ 印			
水産大学校水産学研究科 _____ 専攻に入学を志願いたします。			
専攻分野	専攻分野	筆記試験科目	
研究指導	第1志望 研究指導教員名	専門試験 科 目	
	第2志望 研究指導教員名		
ふりがな		性別	男・女
氏名			
生年月日	昭・平 年 月 日生 (満 才)		
現住所	〒	電話	— —
出願資格	大学(校)	学部	学科
昭和・平成・令和 年 月 卒業・卒業見込			
合格時の通知先	〒	電話	— —
◎銀行領収印を押印してもらうこと。			
銀行 領収印 1			

(記入上の注意)

- 募集要項を参考のうえ記入すること。
- 研究指導分野欄は、研究指導分野名を同一専攻分野内に限り第2志望まで記入することができる。
- 第2志望がある場合は、第1志望及び第2志望の研究指導教員が指定する専門試験科目をそれぞれ1科目を受験すること。(4ページの専門試験科目と注意事項を参照すること。)
- ※印欄は記入しないこと。

**写真票**  
水産大学校水産学研究科

※受験番号	
志望専攻名	専攻
研究指導 分野	第1志望 :
	第2志望 :
氏名	男・女

**受験票**  
水産大学校水産学研究科

※受験番号	
志望専攻名	専攻
研究指導 分野	第1志望 :
	第2志望 :
氏名	男・女

筆記試験科目

専門試験 科 目	
外 国 語	英 語

**銀行振込金依頼書**

電信扱	※勘定科目					
依頼日	年 月 日	振込指定	電信扱	手数料		
振込先銀行	山口銀行 吉見支店			金額	¥ 3 0 0 0 0 0	
受取人	預金種目	普通預金	口座番号	6 0 7 5 1 3 6	現金	
	口座名	ヨリツケンキヨカハツホジン スケンケンキヨ・キヨウキヨウ				
		国立研究開発法人 水産研究・教育機構				
依頼人	志望の専攻分野を○で囲むこと。 1. 漁業技術管理学 2. 機関工学 3. 水産資源利用学 4. 水産資源管理学					
(受験者)	フリガナ					
	氏名					
	住 所	TEL				

銀行  
領収印  
2

**銀行取扱期間**

令和8年1月 9日から  
令和8年1月 16日まで

入学願書は(郵送する場合を含む)  
期間内必着、振込の際は注意のこと。

(注) 受験者は必ず氏名(フリガナ)、住所、  
電話番号及び専攻分野(番号を○で囲む  
こと。)を記入すること。

銀行振込金領収書  
令和8年度 入学検定料

依頼日	年 月 日
金額	¥ 3 0, 0 0 0
振込先銀行	山口銀行 吉見支店
受取人	国立研究開発法人 水産研究・教育機構

フリガナ	
依頼人氏名	

上記のとおり領収いたしました。  
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

(本人控)

# 履歴書

現住所	〒				
氏名					昭・平年月日生
学歴 (高等学校以上)	年	月	日	事項	
	・	・		高等学校卒業	
	・	・			
	・	・			
	・	・			
	・	・			
	・	・			
職歴	・	・			
	・	・			
	・	・			
	・	・			
賞罰	・	・			
	・	・			
上記のとおり相違ありません。					
令和 年 月 日					
氏名					
印					

注) 履歴中に虚偽の事項を記載し、また当然記載すべき事項を記入しなかった者は、入学許可を取り消すことがある。

受験番号	※
------	---

## 志 望 理 由 書

令和 年 月 日

水産大学校校長 殿

ふりがな

志願者氏名 \_\_\_\_\_

私は、水産大学校水産学研究科 \_\_\_\_\_ 専攻に入学を志願します  
のでここに志望理由書を提出します。

キ

リ

ト

リ

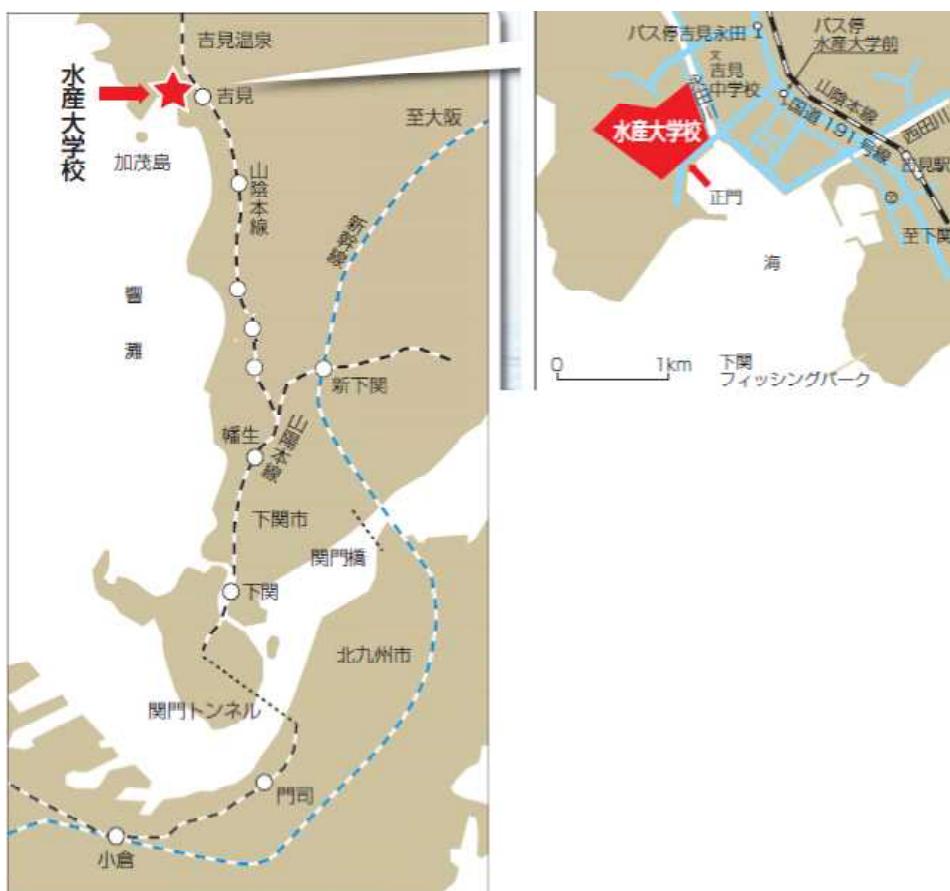
線

志望理由書用紙

この用紙は、志望する研究指導分野（第1, 第2志望）についての志望理由及びこれから取り組みたい研究について記入して下さい。

注) 志望する研究指導分野（第1, 第2志望）についての志望理由及びこれから取り組みたい研究について記入して下さい。

## 試験場案内図



国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校

〒759-6595 下関市永田本町二丁目7番1号

TEL (083) 227-3842

### ◎ 交通案内

J R 山陰本線 吉見駅 下車 徒歩約15分

#### バス (サンデン交通)

下関駅前バスターミナル3番のりばから

北浦線 「34 吉母港」行, 「35 川棚温泉」行, 「35A 川棚温泉」行  
のいずれかに乗車

水産大学校前バス停 下車 徒歩約5分